

# 四恩園

SECTION

142

地域の  
つながり  
から喜びへ



# 「地域のつながりから喜びへ」

社会福祉法人北海長正会 常務理事 中川 浩一

記録的な暑さが続いた二〇二五年夏、「今年一番の暑さに……」という見出しが何度かニュースで話題となりましたがその暑さも漸く落ち着き少しずつ秋を感じられるようになってきました。

北海道の気候は年間を通して気温・湿度ともが低く、四季の変化がはっきりしているのが特徴でしたが、今年の夏のような暑さが来年以降も続くようだと私たちの日々の暮らしや備えも変えていかなければいけないのかもしれない。

## 地域を支える法人の取り組み

法人は来年設立五十周年を迎えます。一九七七年に障害者のリハビリテーション施設「北広島リハビリセンター」に始まり、一九九五年に地域の高齢化に対応するためのサービス拠点として「四恩園」、二〇〇五年認知症の方々の通所拠点として「デイホームさとし」、二〇一〇年住民交流・活動スペースを有した相談、通所介護拠点「地域交流ホームふれて」、二〇一四年同じく地域住民交流・活動スペースを有した北広島市地域密着型事業、サービス付き高齢者住宅の機能を持つ「地域サポートセンター」ともに、二〇一五年在宅の障がい児者の相談・通所介護拠点として「地域サポートセンターみなみ」を開設、その時々や時代の状況に

応じて法人事業を展開してきました。これからもそれぞれの施設・事業が地域の方々の生活を支え、地域にとって無くてはならない資源として、あそこにあの人在り、そこに存在するという事業、法人であり続けたいと思います。

## 地域づくりの輪が広がる

地域における生活課題は様々です。人口減少、人出不足、孤立・孤独、地域の生活サービスの停滞などがあり、国や地方自治体は様々な取り組みを進めていますが、北広島市においてもここ数年の中で新たな取り組みやその成果が見られるようになりました。北広島市が国から受託した「生涯現役地域づくり環境整備事業」は三年間の限定事業ではありませんが多様な活動がこの事業によってスタートしました。新たな移動手段を模索した「モビリティ事業」、ドッグラン＆カフェによる出会いの場の創出した「ドッグラン事業」、トーチや薪づくりをビジネス化した「森林事業」、生涯現役の根幹となる健康づくりとして「フィットネス事業」が二〇二六年四月にオープンします。これらの事業は住民アンケート・企業アンケート調査、住民ワークショップを開催など住民の声を基に活動をスタートさせ、大勢の地域の方々に事業にかかわっても



らい成果をもたらしました。今回、地域づくりにおいて住民の声を聴くこと、変化を生み出すための行動・実践の大切さを改めて再認識した出来事でありました。

## 賑わう街おこしを支えるスタッフ

七月六日、第三住区福祉祭りを皮切りに北広島団地地区内の夏祭りが始まりました。七月から八月にかけて開催された各住区並びに町内会の夏祭りは今年も大勢の方々が訪れていたようです。当法人もお手伝いをさせていただきましたが、ここ数年、幼児を抱えた若いご夫婦や小学生と思われる子どもたちがずいぶん増えてきた印象をもちました。お祭りを企画し運営する住区（町内会）役員の方々の苦労は如何ばかりかと思いますが、お祭り当日の来場者の笑顔を見るとこのように人が集まり、語らい、喜びを分かち合う場は地域に欠かせない一要素と感じます。

九月六日、「ふれてフェスティバル」が開催されました。当日は天気にも恵まれ二〇〇人の来場がありました。ふれて市民スタッフの皆さんが中心となって

企画していただいています。当日スタッフはふれてそばの商店街の方々、法人職員を加えると二二〇名に及んだそうです。十月十八日には「ともに学芸会」がともに体育館で開催されました。ともに市民スタッフの皆さんが地域のシンボルであった旧緑陽小学校の学芸会を引き継ぎ企画運営されるイベントです。

それぞれの企画・運営を担うスタッフの皆さん支えがあつてイベントは開かれ賑わいを見ます。支えられる側から支える側へ。地域の賑わいは私たち一人ひとりの関わりでこれからも続くはず。

## つながることから喜びへ

法人では、当法人サービスをご利用されているお客様を地域で開催される夏祭り、ふれて・ともにイベントにお連れさせていただいております。身体やこころが少し不自由であっても全てができない訳ではありません。手をあげてイベントに出演する、知恵を絞って作品を作り販売する、そこから喜びを感じることもできます。日頃体験できない催しへの参加や懐かしい方々との再会は一住民として大変貴重な機会であると捉えています。人は人とのつながりの中から生きることができ、喜びや幸せを感じることが出来ます。地域で開催される地域づくりイベントが団地地区に活気をもたらす、これからも盛大に開催されることを切に願うものです。

これからも当法人への支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

# 人と人のつながりから 生きることの喜びを知ろう！

ふれて  
フェスティバル  
2025

～大盛況のなか  
開催できました～

去る9月6日（土）朝から日差しが強い晴天の中、地域交流ホームふれてでは、ふれてフェスティバルが開催されました。ふれてフェスティバルは今年十五年目を迎えます。世代、障がいに関係なく顔の見えるつながりを、そして安心して生活出来る地域を作ることを主旨として、ふれて市民スタッフが中心となり運営しており、ふれて地元町内会や商店街の皆さん、地域の方々、四恩園の職員も力を合わせてこのフェスティバルを盛り上げております。

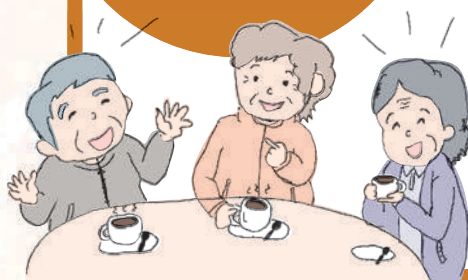
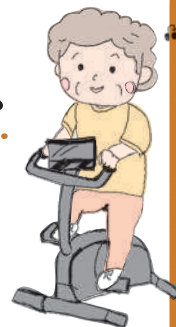
ふれてフェスティバルの売上は、北広島団地内のバス停や緑地帯にベンチを設置する活動や、ふれてで開催されるイベント、ミニ講座などに使われています。



2026年  
4月OPEN  
予定

## 心と体をつなぐ コミュニティフィットネス

- 運動：あなたの「～したい！」を叶える  
セミパーソナルトレーニング
- 学び：専門職によるミニ講座  
（栄養・睡眠・生活改善等）を開催。
- 交流：運動後に喫茶で歓談。  
仲間と楽しく続け健康と絆が育まれる。



イラスト：高谷 里奈

ステージの熱気と観客の拍手で地域が1つにつながる!

## 第9回 とともに地域の学芸会

～雨にも負けず大賑わいでした～



去る10月18日(土)小雨まじりの天気の中、地域サポートセンターともにでは、ともに地域の学芸会が開催されました。ともに地域の学芸会は今年9回目を迎えます。地域のシンボルであった旧緑陽小学校。秋には学芸会が行われ、小学生たちの素晴らしい発表を家族や地域の方々が拍手で見届けていました。当時の光景を再現するべく、ともに市民スタッフが中心となり、世代や障がいに関係なく誰もが楽しめるひとときとなっております。当日は地域の小中学校や養護学校の生徒、ダンスサークル、相撲甚句会などが出演してくださり、観客の拍手と相まって素晴らしい学芸会となりました。



## 『地域で暮らすということ』



講師

加藤 伸司 先生

東北福祉大学教授  
認知症介護研究・  
研修仙台センター  
センター長

【と き】 2025年11月22日(土)  
10:00～11:30

【と ころ】 北広島団地地域サポートセンターともに  
北広島市緑陽町1丁目2

【定 員】 50名

主催：社会福祉法人 北海長正会／共催：北広島市介護サービス連絡協議会

社会福祉法人 北海長正会

## 住民向け 公開講座

参加無料

【問い合わせ】

担当：吉田・佐々木  
011-372-8110

# 回り道をして、 またそこから始めればいい

## 新人職員インタビュー

4月より北広島訪問看護ステーション四恩園で作業療法士として勤務する今井貴裕さん、軽音楽に没頭した大学時代、先の事を悩んだ20代、遠回りをしてきたからこそ見えてきた「誰かの役に立てる仕事」にどう出会えたのか。当時の気持ちなどをお聞きしました。



訪問看護ステーション四恩園  
作業療法士 今井貴裕

**とにかく毎日が  
楽しければ良かった**

栗山町で生まれ育ち、高校時代は弓道に熱中していました。大学では、学内の屋外ステージで観た先輩の演奏に憧れて軽音楽部に入り、ギターとバンド活動に没頭しました。「普段は集団の中であまり物を言わない性格ですが、ギターを持った時には感情を出せるみたいなんです。ギターを叩き割ったこともあります（笑）」。

大学には大抵夕方からでかけ、部室で曲を作っては演奏し、そのまま仲間と飲みに行く毎日。気づけば単位は足りず、4年生の時に卒業できないことが発覚、留年する気にもなれず中退という形を選びました。両親、とくに父親との関係はぎくしゃくしました。

**自分は何に**

**なりたかったんだろう**

その後はコンビニや駐車場の管理など、仕事を転々としながら作詞作曲や



没頭したバンド活動、  
ギターを叩き割った事も…

演奏を続けていましたが、音楽を仕事にするには東京で音楽プロデューサーと関係を作っていくことが重要になるなど、趣味で楽しむのとは全く違うことに気づき、その道に進もうと思いませんでした。

正職員として働けると紹介してもらった橋の点検の仕事は、月曜日に自宅を出て週末まで現場周辺で宿泊、ほとんどが一人作業なので同僚との会話もありませんでした。コンビニや駐車場の管理は同僚や常連さん達とのコミュニケーションが良かったことが楽しかった理由なのかもしれないと感じました。

そろそろ違う仕事を探そうかなと思っていた頃、グループホームで働く父から「作業療法士になるために、学校に通ってみないか？」と話がありました。今まで散々自由にしてきた自分にとっての責任のようなものも感じ、学校に通う事を決意しました。

**働くならこういうところ**

**かもしれない**

学校ではさまざまな病院や福祉施設で実習を経験してきました。

「病院のリハビリ室は既に三十歳を超えていた自分にとって場違いのように感じました」何となく違和感を残したまま地域実習へ。「のびのびファイン（北広島リハビリセンター）で実習をした時、直感で『ここかもしれない！』って思えたんです」

DIYにも興味があつたせいか、職員総出で行う施設のワックスがけに参加したことも楽しい経験で、「自分が働

くならこんな職場かもしれないな」と思い、北海長正会に履歴書を送ることにしました。

**焦らず、自分のペースで**

今は、北広島訪問看護ステーション四恩園の一員として、お客様のご自宅を訪問したり、法人内の施設の中で主に個別の機能訓練に従事しています。

「元々集団より一対一の方が得意なので、楽な気持ちで進めていけています」

休日はいつも車に積んである自転車を組み立ててサイクリングに出かけたり、音楽機材等の掘り出し物を探しに地方のリサイクルショップまでドライブしたり、ギターを弾いたりしています。

作業療法士として、人として、等身大で日々を重ねる今井さん。回り道をして、またそこから始めればいいというのを改めて今井さんから教えてもらいました。これからの今井さんの歩みを楽しみにしています。

（インタビュー：玉田 亜矢）



日々できる事を積み重ね、お客様と接する

お客様

# 人生劇場

～笑顔で切り開く力～

藤岡鈴子様

今回はサービス付き高齢者向け住宅し  
おんに入居されているお客様にインタ  
ビューさせていただきました。

三味線、華道、茶道に  
打ち込んだ青春時代

昭和八年生まれ、現在九十二歳の藤岡鈴子さんは旭川市で印刷工場を営む家に六人兄弟の五番目、三女として生まれました。十二歳くらい歳の離れた兄が父の印刷工場の跡を継いでから二五〇人くらいまで従業員を増やして工場を大きくし、鈴子さんは女中さんにお世話してもらったそうです。

子どもの頃、昔はこの道路も土でしたが、近所の電話局の前だけはコンクリートになっており、そこで、縄跳びや石けり、チョークで落書きしたことをよく覚えているそうです。近所の友人たちの家も皆、商売を営んでいたそうで、「米屋のよしちゃん元氣かしら」と当時のことを懐かしがられていました。

女学校時代から、三味線、華道、茶道を習っていたそうですが、「お師匠さんは礼儀作法にとても厳しく、いつも怒られてばかりいたんですよ。お月謝の渡し方なども細かいところまで注意されて」と笑ってお話されていました。



実家の印刷工場

す。その後、高校を卒業しても就職はせず、三味線、華道、茶道を極め、すべて師範の資格をお持ちです。お料理も好きで、ご家族に料理をふるまっていたそうです。

ちょうどその頃、日本は戦争に突入し、女学生は労働力となり、鈴子さんは上級生が刈った稲を束ねて運んだ記憶があるそうです。兄も戦争へ招集されました。「終戦後、無事帰還した兄から、戦争の悲惨な話をたくさん聞かされました」と話しています。

多忙な夫の分まで、  
家と子どもを守り抜いた

家業の印刷工場へ出入りしていた銀



三味線の発表会

行の方からお見合い話があり、銀行員のご主人と結婚。一男一女に恵まれました。夫の転勤で、横浜、富山、北見へ異動。札幌へ異動になったことを機に、北広島に家を建てました。「もともと花が好きだったので、庭づくりにこだわり、自宅の縁側から庭を眺めることがとても好きだったんです」。

ご主人は残業や飲み会等の付き合いで毎晩帰りが遅く、休みの日も麻雀等に誘われ、お付き合いで外出することが多かったため、家で一緒に過ごしたという記憶がないそうです。「几帳面で誠実な性格だったため、断ることが出来なかったんでしょうね」。時々、鈴子さんがご主人に不満をぶつけても、すべてを受け止めてくれるような

温かいご主人だったそうです。定年退職後、間もなくして、ご主人の病気が発覚し、病気が分かってからは、あっという間に亡くなってしまったそうです。ご主人が入院中、毎日見舞いや当時は病院に付き添って泊ることもできましたが、ご主人は「家を空けるな」と言われており、あまり頻繁に行くことができなかったそうです。「主人は家を大切に思っていたので、家を空けるなと言っていたんでしょう。代わりに娘が毎日見舞いに行ってくれたので、主人はとても喜んでいましたよ」。娘様の結婚式で映した夫婦そろった素敵な笑顔の写真が今でも鈴子さんのお部屋に飾られています。

### 五十歳から営業職へチャレンジ

五十歳くらいの時、自宅に出入りしていた生命保険会社の営業の方から「働いてみないか」と誘いを受け、人生初めての就職することになったそうです。「何も知らない世界に飛び込んでしまいました、もうやるしかない」と覚悟を決めて働いてみました。保険の営業職では、集金の仕事もありましたが、「考えてみれば当たり前のことなんですけど、集金に行ったのにおつり用の小銭が必要なのがわからな



保険の営業職の送別会

くて、『集金にきておつりを持ってこない人がいるのか!』とお客様に怒られたこともありましたね。でも、そうやって失敗をしながらも頑張っているうちにお客様に覚えてもらえて、当時は大口の契約をたくさん取ることができたんですよ」と当時を思い出します。家庭と仕事を両立しながら勤務され、あつという間に勤続二十年が経ち、後輩に引継ぎを行って退職されました。鈴子さんは明るく人当たりの良い性格なので、退職した後後輩や同僚等から慕われる存在となりました。食事等のお誘いも続き、「気づいたら体重が大変なことになっていて。とても太っていた時代もあったんですよ」と笑って話します。今はスマートな鈴子

さんからは想像が付きません。

### 引越しても思い出のソファを残したい

ご主人が病気で他界された後も、お気に入りの庭がある自宅で生活されていましたが、「九十歳を過ぎるとダメですね」と、お一人暮らしに不安を感じられ、以前から申し込んでいた自宅近くのサービス付き高齢者向け住宅におんへご自宅を手放しご入居されました。「本当は自宅で生活したかったですよ。でも子供たちに心配かけてしまっから。仕方ないですね」。自宅には外国製の立派な皮のソファセットがありました。反対するご主人を説得してやっと買ってもらった思い出のお気に入りのソファセットだったそうです。「あのソファは本当に座り心地が良くて、自宅を手放す時にどうしても居室へ運んでもらいたかったんですけど、大きすぎて部屋には入らないって言うものですから、少々手放すことになったんですけどね。でもどうしてもそのソファに座りたくて、通っているデイケアで話してみたら、うまい話が進んで、寄贈させてもらうことができたんです。言ってみるものです。おかげで、デイケアに行く

たびにそのソファに座ることができるので、もう何があってもデイケアは辞められませんか」と笑って話します。サービス付き高齢者向け住宅しおんへご入居された後も、ご友人やご家族が訪ねて来られたり、同じ建物の中で「健康体操」等に参加されたり、居室から見える緑や花を眺めながら、穏やかに生活されています。「しおんに入居したばかりの頃はとても寂しかったんです。でも、今はいつも関わってくれるケアマネも、看護師も、ヘルパーもみんな近くにいて、何かあったらすぐに相談できるから、ここに入居して本当によかったなと思っています」。

(インタビューア 松崎 千絵)



安心して生活できる場所

社会福祉法人 北海長正会 2024年度決算概要  
(自) 令和6年4月1日 (至) 令和7年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	801,539,000	796,333,000	5,206,000
		老人福祉事業収入	57,900,000	58,646,900	△746,900
		障害福祉サービス等事業収入	647,506,000	646,242,877	1,263,123
		医療事業収入	21,744,000	22,099,915	△355,915
		その他の事業収入	12,033,000	16,341,415	△4,308,415
		経常経費寄附金収入	716,000	746,000	△30,000
		受取利息配当金収入	29,000	121,572	△92,572
		その他の収入	8,015,000	14,284,152	△6,269,152
	事業活動収入計(1)		1,549,482,000	1,554,815,831	△5,333,831
	支出	人件費支出	1,069,656,000	1,076,338,404	△6,682,404
		事業費支出	246,520,000	243,549,790	2,970,210
		事務費支出	105,503,000	98,230,576	7,272,424
		利用者負担軽減額	92,000	72,555	19,445
		支払利息支出	2,912,000	2,684,953	227,047
		その他の支出	2,000	1,151	849
	事業活動支出計(2)		1,424,685,000	1,420,877,429	3,807,571
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		124,797,000	133,938,402	△9,141,402
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	675,000	1,104,000	△429,000
		固定資産売却収入	635,000	735,000	△100,000
		施設整備等収入計(4)	1,310,000	1,839,000	△529,000
	支出	設備資金借入金元金償還支出	36,324,000	36,318,000	6,000
		固定資産取得支出	5,534,000	5,182,317	351,683
		ファイナンス・リース債務の返済支出	8,305,000	8,070,409	234,591
	施設整備等支出計(5)		50,163,000	49,570,726	592,274
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△48,853,000	△47,731,726	△1,121,274
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	5,590,000	20,080,837	△14,490,837
		その他の活動による収入	700,000	930,000	△230,000
		その他の活動収入計(7)	6,290,000	21,010,837	△14,720,837
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	4,992,000	4,992,000	0
		積立資産支出	50,392,000	60,692,805	△10,300,805
		その他の活動による支出	680,000	780,000	△100,000
		その他の活動支出計(8)	56,064,000	66,464,805	△10,400,805
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		△49,774,000	△45,453,968	△4,320,032
予備費支出(10)		0	-	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		26,170,000	40,752,708	△14,582,708	
前期末支払資金残高(12)		295,068,631	295,068,631	0	
当期末支払資金残高(11)+(12)		321,238,631	335,821,339	△14,582,708	

今号の表紙は、訪問看護をご利用されているお客様が、外出行事にてエスコンフィールドにお出かけになられた時のお写真を掲載させて頂きました。在宅酸素の生活になってから外出がしばらくなくなってしまいました。

元々野球は好きで、ご自宅からエスコンフィールドが見えるので、いつかは行ってみたいと思っていたそうです。外出行事の前から清宮選手のユニフォームを購入し、ベッドから見える場所に飾って外出当日を楽しみにされていました。エスコンフィールドの見学後には回転寿司でお寿司と日本酒に舌鼓を打たれながら余韻を感じていらっしゃいました。

この広報誌のアンケートにご協力をお願いします。こちらから↓



●発行者 社会福祉法人 北海長正会  
●住所 〒061-1153  
北広島市富ヶ岡509-31  
●TEL (011)373-6655  
●FAX (011)373-6611

●ホームページ <http://www.shionen.or.jp>  
●E-mail [tokuyo@shionen.or.jp](mailto:tokuyo@shionen.or.jp)  
●編集発行 広報委員会  
●編集発行責任者 理事長 三瓶 徹  
●発行日 2025年11月

